

山口県病院協会 会報

2022 **4月号** No.75

- 発行日 令和4年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



特定医療法人茜会 よしみず病院

〒751-0826

住 所 下関市後田町1丁目1番1号

電 話 083-231-3888

FAX 083-231-7957

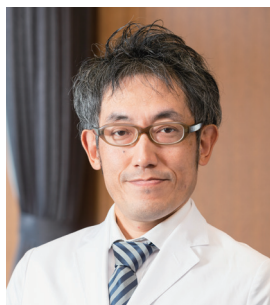
URL: <https://www.akn-yoshimizu.com>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2～3 ページ
協会役員コーナー.....	4 ページ
病院スタッフコーナー.....	5～6 ページ
トピックスコーナー.....	7 ページ
諸会議報告.....	8 ページ
お知らせコーナー.....	8 ページ

会員病院紹介

理事長挨拶



特定医療法人茜会
よしみず病院

理事長 吉水 一郎

特定医療法人茜会は昭和63年に下関市に開設し、昭和病院を中心に「外来・入院・在宅」を三位一体とした地域医療を行ってきました。平成21年には、北九州市より北九州市立門司病院の指定管理者に指定され、この二つの病院を中心に関門地域において回復期・慢性期の医療及び介護の提供を行って参りました。

令和3年12月に昭和病院は、「よしみず病院」として新築移転し、昭和病院の398床（内、介護医療院60床）と下関長府に位置する、豊関会記念病院の53床を統合しました。

これにより、451床（内、介護医療院60床）となり、病院・病床機能も集約化を行い、効率の良い病院運営が可能となりました。

建築に至るまでは、約4年がかりで建設業者検討を繰り返し、コンセプトとして新しい希望と未来が築けるように、「愛・感動・NEXT」（A・K・A・NE）とし、職員一丸となって新病院の形を考えながら取り組みました。病院名についても、職員公募により「よしみず病院」に決定するに至りました。

従来の昭和病院では、リハビリテーションを中心とした地域密着型の病院機能であり、中でも在宅復帰が困難なパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の神経難病の患者が多く療養されていました。そのため、独自に神経難病センターを設立し、医療やケアの充実を図っていました。この経緯からこの度、山口大学の脳神経内科と連携して、下関・門司圏域で神経難病の診断・治療の拠点病院となるよう「脳神経筋センター よしみず病院」として生まれ変わりました。CT・MRIは、先進機器を設置し、新たにRI室（SPECT）を設けて高度な診断が可能な環境を整備し、初期の診断から終末期まで切れ目のない医療を提供できる病院となりました。

病院フロアについてですが、1階には診療部門以外に多目的ホール「ばるて」（地域交流スペース）があり、レストラン・コンビニを併設しており、グループ内社会福祉法人が就労継続支援A型として事業を行っています。障害や難病を抱えた方が、一般の企業に就労する支援を行うようになります。この事業には、院内の職員もサポートしますが、地域の皆様方のご理解も必要と考えております。この多目的ホールは3分割が可能で、地域の交流スペースや、各種サロンの開催、また、解放すると研究会などが開催できる講堂としても利用できます。2階部分は管理部門以外に広大なリハビリテーションスペースを設けており、神経難病患者以外に、回復期、慢性期及び小児リハビリが提供できるよう整備しています。3階から6階までが入院病床となっており、一般病棟・障害者等一般病棟・特殊疾患療養病棟・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟・医療療養病棟・介護医療院の病床機能を有します。

従来の地域密着型の在宅療養後方支援病院としての機能は保ちつつ、地域社会に貢献できるよう邁進いたしますので宜しくお願いいたします。

＜病院の現状＞

1) 概要

名 称 特定医療法人茜会 よしみず病院

開設者 吉水 一郎

所在地 山口県下関市後田町1丁目1番1号

T E L 083-231-3888

F A X 083-231-7957

Email hosp@akn-yoshimizu.com

U R L https://www.akn-yoshimizu.com

病床数 451床

一般病棟38床、回復期リハビリ病棟60床、
 地域包括ケア病棟60床、医療療養病棟113床、
 特殊疾患病棟60床、障がい者病棟60床、
 介護医療院60床

診療科 脳神経内科、内科、リハビリテーション科、脳神経外科、
 整形外科、循環器科、消化器科、外科、皮膚科、泌尿器
 科、放射線科、歯科

2) 沿革

昭和61年9月 吉水内科開設

昭和63年1月 医療法人茜会設立

昭和63年10月 是石内科開設（現勝山クリニック）

平成4年12月 昭和病院（402床）を継承により開設

平成5年12月 漁港診療所の運営を（社）下関水産振興協会より
受託平成21年4月 北九州市立門司病院に係る指定管理者に指定され
運営開始平成22年4月 ウエストジャパン看護専門学校開設（現よしみず
病院看護附属学院）

平成23年4月 特定医療法人認可

平成26年4月 メディカルケアタウン東大島開設

平成31年4月 介護医療院開設（60床 介護療養病棟転換）

令和2年6月 豊関会記念病院合併

令和3年12月 よしみず病院開設

3) 特徴

令和3年12月より、昭和病院から「脳神経筋センターよしみず
 病院」として、下関市後田町（旧国立病院跡地）に新築移転しま
 した。回復期リハビリテーション、地域密着型の在宅療養後方支
 援病院としての機能もさらに充実を図りました。加えて、神経・
 筋難病の早期診断から終末期まで一貫した医療が提供できるよう
 RIセンターを整備しています。新たな環境で今後も全職員が、「地
 域医療に貢献する」という理念に沿って努めていきます。



協会役員コーナー

地域医療の新しいパラダイムを求めて



社会医療法人同仁会
周南記念病院
病院長 橋谷田 博

新年度が始まり、皆様も新たな気持ちでスタートしておられることと存じます。昨年度は、一昨年から続いて新型コロナウイルスが猛威を振るい、社会全体に深刻な影響をもたらしました。その嵐の中で、当院も、コロナ病棟、発熱外来、ワクチン事業に携わり、荒波を乗り越えてまいりました。

パンデミックという歴史的事態を通じて、私たちが得た知見と経験は、さまざまな困難を乗り越えて明日の医療の発展へ繋げてゆかなければなりません。

浮き彫りになった課題は、人口減少や超高齢社会を背景として、従来の「治す医療」から「治し支える医療」へのパラダイム転換、すなわち医療・介護・福祉及び生活支援にかかる「複合的ニーズへの対応」が私たちにとって急務であるということです。やるべきことは、社会構造の変化を理解し、地域に必要とされる機能を強化して、真に求め

られる病院に生まれ変わることです。

今後は「地域医療構想」「地域包括ケアシステム」という新しい枠組みにおいて、病病連携、病診連携、介護施設・在宅との緊密な連携の下、それぞれに機能分化し、地域医療を支える未来像を描く必要があるのです。

現在、国と県が「心臓リハビリテーション」という事業を推進しています。周南記念病院も、周南地域の「心臓リハビリセンター」を立ち上げ、地域医療に貢献してゆく所存です。引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

明るい未来



医療法人愛の会
光風園病院
病院長 木下 祐介

世の中はコロナ中心となってしまいました。今回は何か違う話題をと思っていましたが、オミクロン株による第6波の中で原稿を書いています。

2年前の年初から「どうも何かが起きているらしい」と世界がざわつき始めました。2月に予定されていた学会が急遽オンラインとなり、慣れない収録に戸惑ったのもずいぶん昔の事ようです。その後は仕事も生活も様変わりしてしまいました。

こうしたなか、改めて山口県の環境や自然の恵みに感謝しています。病院の周りには、四季折々の花や草木があふれ、瀬戸内海を越え遠く国東半島や由布岳を望むことができます。休日には子供と裏山を散策したり、近くの海岸で磯遊びをしたりと、密を避けながらのびのびと過ごせています。出張や会合も皆無となり、庭でバーベキューをして地元の山海の幸を楽しむなど、家族で過ごす時間が増えました。運動量が激減したにもかかわらず食欲は増進し、だいぶんとふくよかになりましたが、心身共に健康を保ちながら暮らせています。

東京への一極集中の回避やSDGsなどと難しい事は分かりませんが、情報システムが発達した社会での田舎暮らしは快適なものだと感じています。大都市との教育格差や働く場が少ないなど色々な問題が地方にはありますが、コロナで社会の変化が加速し案外と早いうちに解決されるのではないのでしょうか。

「そうこうするうちに山口県の医療従事者不足や人口流出などの課題も解決されると良いな……」などと、コロナに追われる合間に夢想しています。

病院スタッフコーナー

クラスター終息後の取り組みについて



医療法人治徳会
湯野温泉病院
理学療法士

渡邊 深雪

当院は、療養型病院で、入院の病棟は2～4階です。リハビリスタッフは、理学療法士4名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、助手1名の9名です。

去年1月、当院で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。外来診療は休止、入院患者は隔離に。通常業務は困難となり、リハビリは病棟内の消毒・清掃や、発生状況の情報伝達、廃棄物の運搬等行いました。県や保健所など、外部の方々にご指導頂き、3月に終息しました。

通常業務再開後、入院患者の体力低下に愕然としました。約2ヵ月間の隔離生活のため、中には歩行、起立、座位など、以前は出来ていたことが困難になった方もありました。現在は体力が元に戻ってきた方が多いです。

感染リスクを減少させるための工夫として、理学・作業療法士の担当を、各階ごとに変更しました。リハビリを実施する場所も、リハビリ室中心→病棟中心に変化しました。その結果、患者の日常生活をよく見ることができ、病棟スタッフとの情報交換も行いやすくなりました。

山口県も全国も、感染が再拡大しています。去年の教訓を生かして、今後も感染予防に気を引き締めていきたいと思っています。

多職種連携による転倒・転落防止



総合病院
山口赤十字病院
理学療法士
リハビリテーション科
技術第一係長

竹本 幸生

近年、超高齢社会となり転倒・転落による事故は増加傾向にあります。また地域よりも病院や施設の方が転倒・転落の発生率は高くなります。

当院では2019年9月より転倒・転落防止チームを発足し、転倒・転落の発生率及び骨折や頭部外傷等の有害事象発生率（損傷率）減少を目標に活動しています。転倒・転落予防には多面的な対策が必要なことから、チームメンバーは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW、ME、OT、PTなど多職種で構成されています。

チーム発足の初年度はマニュアルを作成し、翌年は転倒リスク評価を改訂しました。この評価では、入院した全ての患者に対しスクリーニングを行なった後、「転倒リスクあり」と判断された患者に対し、転倒・転落の要因となる具体的な要因を調べます。評価は病棟の看護師にて行われ、今年度は入院患者の95%以上に評価が行われています。転倒リスク評価を集計すると当院に入院される患者の約80%がスクリーニングにて「転倒リスクあり」となっています。患者数が多いため、各患者に対する対策は病棟主導で

行われていますが、対策に迷う場合は、要因に即した専門職やチームに相談し対策が取られます。

当院における転倒・転落の発生率は、これまで3.0%を超えることが多かったですが、チーム発足の初年度が2.9%、翌年に2.7%、2021年度12月まででは2.3%と減少傾向にあります。損傷率の低減にはまだ至っていませんが、各専門職の知識や技術を活かす多職種連携にて、今後も予防に努めたいと思います。

病院スタッフコーナー

患者に寄り添うセラピストを目指して



医療法人和同会
片倉病院
作業療法士

さいしよ
税所 愛美

精神科の作業療法士になり10年以上が経ちました。この何年かを振り返ってみると、プライベートでは出産・育児というライフイベントを経験してきました。

育児をしていて最近よく耳にする言葉に“自己肯定感”という言葉があります。自己肯定感とは「ありのままの自分を自分自身が認めること」であり、自分らしく生きていくために必要なものです。自己肯定感が高い人は精神的に安定している、と言われており、低い人は逆に不安定な人が多いといわれています。

精神科には様々な方がいらっしゃいます。自分自身を上手に愛せない人、環境の変化に弱い人、少しのことでイライラしてしまう人……。その背景には「自己肯定感の低さ」が隠れている場合があるのではないかと思います。しかし社会的に見ても、自分自身のことを考えてみても、日本人は気質的に「自己肯定感が高い人」というのは少ないのではないのでしょうか。自己肯定感の高低は育ってきた環境の要因が大きく、作業療法

を通して後天的に変えていくことはなかなか難しいですが、セラピストとして出来る第一歩としては、患者さんのよりどころのない不安に共感し寄り添うことではないかなと思います。

精神科領域で求められる作業療法は、一般的な身体領域に対して行うリハビリとは違う部分が多く、何年経っても自問自答の日々です。しかし常に患者さんに寄り添えるセラピストになれるようにという気持ちは忘れないで、これからも精進していきたいと思っています。

超高齢者へのリハビリテーション



医療法人元洋会
森山病院
理学療法士

青木 彩乃

当院は療養型医療病床86床と介護医療院48床からなる134床の病院です。

「個性性を尊重した医療とケアを目指す」という病院の基本理念をもとにリハビリテーション科では「患者様本人、ご家族様に喜んでいただけるリハビリテーションを提供する」ことを心がけています。当院は高齢者が多く、特に介護医療院では現在、下は73歳、上は103歳、平均89.0歳と超高齢者を対象としたリハビリの場面も少なくありません。

加齢が身体・認知機能に与える影響は複雑で、特に超高齢者になると、その個人差がさらに大きくなるのが特徴です。そのため、超高齢者へのリハビリはその個性を大切にし、いかに生活に密着した刺激をしていくかが重要なポイントだと考えています。

そのため、介護医療院ではリハビリ室と療養室が同じ階であり、リハビリ室からも療養室からも見通せるという施設環境の良さも生かしながら、利用者様の生活の場である療養室で利用者様の要求に応じて、更衣・整容・排泄介助・食事介助などリアルタイムに必要なリハビリテーションを提供する取り組みをしています。これらの生活支援の中で気づいた点をケアスタッフと共有し、また、リハビリ室での訓練に個別に生かすことで、従来見られたリハビリ室ではできないのに療養室に戻るとできないなどといった乖離を少しでも減らせるよう努めています。

まだまだ医師や看護師・介護士の視点に気づかされることの多い現状ですが、専門職として日々研鑽し、能力の向上に励んでいきたいと思っています。

トピックスコーナー

新型コロナウイルス感染症対策について



山口県健康福祉部
部長

弘田 隆彦

山口県病院協会の皆様には、平素から本県の医療行政の推進に格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、現場の最前線で献身的に治療にあたってくださいとともに、コロナワクチン接種にも多大なご尽力をいただいております、重ねてお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスは、変異を繰り返しながらその力を強め、感染拡大の大きな波となって、世界中で猛威を振るっています。

本県でも、アルファ株を主流とした第4波においては、高齢者を中心として、中等症以上の患者の割合が高まり、病床使用率が7割を超える中、医療関係団体から医療緊急事態宣言が出されるなど、医療提供体制は大変厳しい状況となりました。

続く第5波においては、感染力の強いデルタ株の影響により、飲食の場をはじめ、家庭、学校、職場など生活のあらゆる場面で感染リスクが高まったことから、本県では初となる飲食店への営業時間短縮などの措置を講じることとなりました。

さらに、本年の年明けからは、オミクロン株の影響により、1月27日には過去最多となる445人の新規感染者を確認するなど、これまでとは比べものにならない規模とスピードで感染が急拡大したところです。

こうした中、県では、病院協会をはじめ関係の皆様方の御理解と御協力の下、一般医療とコロナ医療の両立を図りつつ、全てのコロナ患者が安心して治療を受けることができる体制の確保に努めてまいりました。

まず、入院治療が必要な方を受け入れる病床については、37医療機関・591床、また、コロナ治療後の転院先となる後方支援医療機関についても、84医療機関・249床の御協力をいただいているところです。

さらに、軽症者等を受け入れる宿泊施設や、自宅で療養されている患者のCT撮影、診察・処方、急変時の対応などにも御協力をいただいています。この場をお借りして、各医療機関の皆様方に、改めて感謝申し上げます。

また、発症予防や重症化予防の要となるワクチン接種の促進につきましては、県・市町・医療関係団体等が一元となって接種体制を構築し、全国トップクラスのスピードで接種を進めてまいりました。さらに、昨年12月からは3回目の追加接種を開始しており、迅速かつ円滑な接種に取り組んでいます。

県としましては、引き続き、県民の命と健康を守ることを最優先に、病院協会の皆様方と緊密な連携を図りながら、患者の症状に応じた治療・療養体制の確保や、希望される方へのワクチン接種の推進に努めてまいりますので、一層の御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。

諸会議報告

令和3年度 総務委員会

日 時 令和4年2月

書面開催

【議 事】

1. 令和4年度叙勲受章候補者について
2. 令和4年度県選奨受賞候補者の選定について
3. 令和4年度県知事表彰（看護職員）推薦について
4. 令和4年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
5. 令和4年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）について

6. 令和4年度山口県病院協会事業計画（案）について

【その他】

令和3年度 第4回情報管理委員会

日 時 令和4年3月

書面開催

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

会員等の異動

会員の変更

- ・周南リハビリテーション病院
- ・湯野温泉病院
- ・宇部リハビリテーション病院

変更後

- 理事長 白川 重雄
- 理事長 堀家 英敏
- 病院長 松永 信

変更前

- 理事長 福澤 正洋
- 理事長 都野 治男
- 病院長 有山 重美

病院名の変更

- ・特定医療法人茜会 よしみず病院（変更前 昭和病院）

会員の退会

- ・豊関会記念病院

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局までお知らせください。変更届の様式は協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）より印刷することができます。

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|--------|-------------|----------------|
| ○5月11日 | 第1回理事会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○5月25日 | 山口県病院協会定時総会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○6月14日 | 第1回情報管理委員会 | （会場：セントコア山口） |
| ○6月予定 | 初級職員研修会 | （会場：セントコア山口） |

編集後記

2020年1月に日本で新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから2年が経過しました。ワクチンや治療薬が次々と承認され、経口薬も使用可能となりつつあるのは大きな前進ですが、この厄介なウイルスとの戦いは、まだまだ続きそうです。全ての人が安心して暮らせる社会を目指して、更なる努力を継続していかなくてはなりません◆一方、我々が新型コロナウイルス対応に追われているなかでも、行政施策は着々と進行しています。今年は診療報酬改定の年ですが、令和4年度診療報酬改定においては、本体部分で+0.43%となっておりますが、薬価、材料価格等を合わせた診療報酬全体（ネット）では、▲0.94%と実質マイナス改定となっております。地域医療構想も着実に進行しており、病床機能再編支援事業も本格的に動き出しています。外来機能報告制度も動き始めました。医師の働き方改革、医師の適正配置、卒後研修問題等々、2025年に向けて、大きな改革のうねりが始まっています。冷静に足元を流れている諸問題を見落とすことが無いようにしてまいりましょう。

（神徳 真也）